

一人ひとりの発達を踏まえた関わり方について～乳幼児体験の大切さ～

健やか育て・育ち直りアドバイザー
元愛知学泉短期大学幼児教育科教授 角田 春高

※ はじめに 日本の子育ての現状

（１）保育心理士設立の経緯

（２）私の知る保育の現状

①保育指針・教育要領の総則では

乳幼児期の教育及び保育は、子どもの健全な心身の発達を図りつつ 生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なもの、と謳っている

②耳に入る「保育」の現状

③乳幼児の育ちへの関心

2、私の取り組み

(1)「いつかは友達のいる普通の大人になる」

(2)不登校・非行への取り組み

(3)精神障害者。アルコール依存症者からの学び

(4)「気になる子」の保育への支援

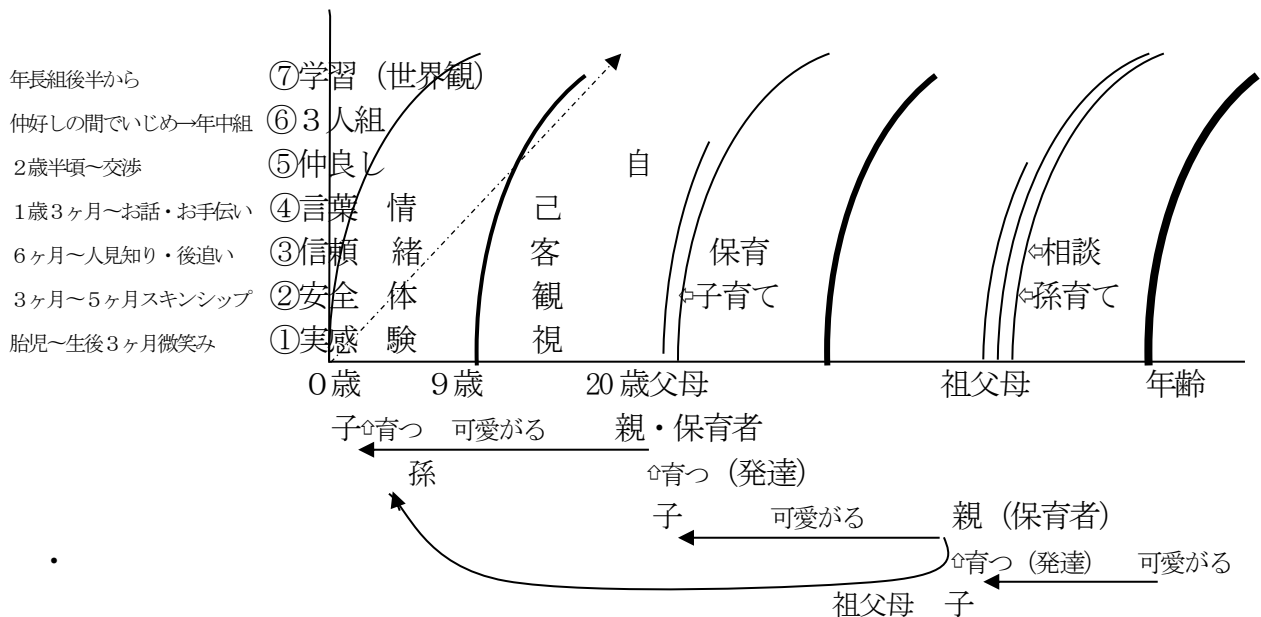
(5)保育事例検討の盛衰

3、心の発達の基本モデル（＝発達過程）＜“今”から、あきらめないで、大人になる道筋を参照

＊乳幼児から老人までの相談経験を基（エビデンス）にして、**年齢相応に育った人、育ち直った人に共通するもの**

るものとして7つの節目（発達課題）を繰り返して大人になる二段階人格形成論を組み立てた。

日本には、「つ」の付くうちの子育て、や、三つ子の魂百まで、との言い伝えがある（正の連鎖）



発達課題：人格の形成（心の成長）の節目（ものさし） <いずれは経験する必要がある発達の節目>

【第1課題】 生きている実感（病気やけがをして、その怖いことが分かる）《実感》

*全面的に親・養育者に保護、養育されて、生きている♡喜んで気持ちよくあやしてもらって♡微笑む（3ヶ月頃）

【第2課題】 物や場所、人による安心感の広がり 《安全・安心、身を守る感覚》

*おんぶや抱っこされて、いつもと違う経験をする♡抱き癖♡しがみつき♡慰められて慣れていく

【第3課題】 人（親）による安心感の広がり 《基本的信頼》 <一人の人としての自立>

*人見知り（6カ月頃から）これが母ちゃんだ！♡後追い（8カ月頃から）♡自分が困ったとき親（大人）に頼れる♡断りを入れられて分かれる♡親は自分を見捨てない♡安心して一人遊びへ

【第4課題】 自分の経験を言葉で覚え、言葉で表し、言葉で分かる《言葉でのやり取り》

*口より先に手が出る（指さし、散らかし）♡言葉で伝える♡親の真似をする♡言葉で言われたことを実行する（お手伝い）♡自己主張（お話しできる）・意志を持てる

【第5課題】 対等な二人遊び（喧嘩もするが仲直りもできる）《仲良し》以上が、三つ子の魂百まで

*イヤ！・交渉の始まり（2歳半過ぎ）♡譲ったり譲ってもらったりの学習♡親を怒らせる♡親と仲直り♡同世代で取り合い、互いの言い分を聞いてもらって仲直り♡A君とばっかり遊ぶ

この課題の基礎まで達成している子どもを本来「3歳児保育」の対象（5領域）として考えている。ここまで成長・発達していない子どもには、どのように乳幼児保育するのか？ それとも、「障害のある子」としてこの先も生きていくもの考えるのか？

- ・思春期以降の大人になって不祥事を起こしたとき、ここまで成長・発達していない乳幼児時代であったと思われる。
- ・子ども園、保育園、幼稚園での年少児以降の保育は、原則として、ここまでの発達をしている子どもを対象にしているが、子どもたち一人ひとりを見ると、「育ちの格差」生じていることと向き合う必要がある。

【第6課題】 対等な三人遊び（仲間外しと仲間外れを通して、三人で遊ぶ）《対等な三人組》

*Aさんと仲好し、Bさんと仲好し、Cさんと仲好し（お互いには仲好しの間柄）⇨AさんとBさんとが遊んでいる時の入り方 ⇨ Aさんと遊んでいるBさん、Cさんの入れ方⇨大人の仲介で、AさんとBさんCさんとが経緯を説明されてお互いの気持ちの理解ができて、仲好く遊ぶようになる

【第7課題】 学ぶ（学習）意欲（宇宙の中の私）《世界観》（生かされて生きている）

* 何となくの気分、豆博士、同じことでも親より先生の言ったときに従う。世界の広さに驚嘆し、自然のすごさ、暖かさ、怖さなどを経験しながら、畏れの気持ちが持てるようになる

4、具体的に考えてみよう

(1)

(2)

(3)

まとめ

- 1、育て直すことで子どもが育ち直す経験事例を基（エビデンス）に、一応、赤ちゃんが大人になる道筋がある（人格の形成）と考える。この発達（人格形成）論が曖昧のままで、子育てや保育、相談が語られている。まず、この健やかな大人になる道筋を学習する必要がある。
- 2、成長・発達・育つとは、人格形成であり、順に積み重なるものであり、親や養育者などの適切な関わり方が必要である。問題行動や症状は、不適切な関わり方により形成される。
- 3、人は、原則、繰り返してである、胎児から乳幼児期、児童生徒、成人、青年、成人、老人と、移り変わる。基本は、正の連鎖である。負の連鎖は正の連鎖にすることができる。それが、育て直しで育ち直す考え方である。

- 4、今からの保育は、子どもの育て直しに取り組みながら自分自身の育ち直りを図ること！「保育」は、幸せを呼ぶ素晴らしい仕事である。3回1セットの事例検討（育っているか育ち直っているかの視点で検討内容を点検）の勧め
- 5、50 年以上に渡る育て直し・育ち直し経験から、どんなに不遇の成育歴でも、「シーツ遊び」から生き直すことができる。この世には見捨てない人がいる。求めよう！あきらめない！

【参考文献】

冊子；「どうする、関わり方！」2024「発達障害と胎児・乳幼児体験」2025「エプロン遊び・シーツ遊びからの育ち直し」2026「ひとりぼっちじゃないと気づけば、変わる！」2026 など。
「振り返り」と「謝ること」で変わる保育～育て直し・育ち直し 文芸社（電子書籍あり） 2024,
赤ちゃんが大人になる道筋と育て直し 一粒書房、2020
< “今” からはじめる育て直し>< あきらめないで、育て直し・育ち直し>、親と園を結ぶ保育誌「げ・ん・き」（No77～166） いずれもエイデル研究所（Tel；03-3234-4641）
詳細は、「角田春高」で検索して見てください